2017年3月のクルディスタン報告

3月1日 - マスード・バルザニ、ロシア政府およびガスプロムの代表と会合
ヘウレル(エルビル):クルディスタン地域政府マスード・バルザニ大統領は 3 月 1 日水曜日、ロシア政府及びガスプロム社の代表団と、イラク・クルディスタンとの関係について会談を行った。バルザニはロシア外務省中東・北アフリカ副局長バレリアン・シュラエブ主導の下ロシアからの代表を受け入れた。

3月2日 - クルディスタン首相、在イラク・ロシア大使と経済について議論
ヘウレル(エルビル)：クルディスタン地域政府首相ネチルヴァン・バルザニは水曜日、在イラク・ロシア大使マクシム・マクシモフと経済分野において会談を行った。マクシモフはエネルギー、投資分野での支援を再確認した。そのためロシアの石油・ガス開発会社ガスプロムに地域における資源採掘を加速させると約束した。ガスプロムは 3 つの油田で原油採掘を行っている。ガルミアン地区の 40%、ハラブジャ及びシャカル地域の 80%を占めている。マキシコフはロシア外務省中東・北アフリカ地域副局長とガスプロムからの代表を同行させていた。

3月7日 - 日本は国連プロジェクト・サービス機関(UNOPS)を通じてクルディスタンに装備を供与
ヘウレル(エルビル)：ヘウレル警察によると、日本政府は 2 億円相当の軍用車、装備をイラク・クルディスタンに供与した。3月6日(月)、ヘウレル警察署長アブドゥルハリク・タラートによると日本政府は軍用車、二輪車、及び装備を 30 の地方警察に供与した。タラート氏は「装備はヘウレル、スレイマニ、ドゥホーク、ソラン、及び他の地域に供与された」言い、加えて地方警察にとって大きな利益になるだろうと述べた。地方警察は犯罪やあらゆる違法行為を阻止するため注意喚起をする義務がある。(NRTTV)

3月8日 - 米軍はシリアに海兵隊を駐屯、クルド人勢力に砲撃支援を行う予定
ワシントン：数百人の海兵隊員がシリア・クルディスタン(北シリア)に到着した。米軍高官によると IS の「首都」ラッカ奪還の準備のため、クルド人勢力の砲撃支援を行う見込みだ。
第 11 海外遠征隊の砲兵隊は数週間前にシリアに到着し砲兵陣地を設営した。M777 砲は 6.4km 先の目標を狙うことができる。さらに高官によると砲兵隊を支援するための海兵は「数百人に及ぶ」という。米軍は 503 個の部隊に IS と戦う「シリア民主軍」を助言、支援するためシリア領内に駐屯させている。

3月7日 - トルコ、アメリカ、ロシアの軍高官がシリアについて会談
アンタルヤ：トルコ軍参謀長はアメリカ、ロシアの軍高官とトルコ南部アンタルヤで会談した。トルコ軍が 7 日に伝えたところによると、地域の安全保障、とりわけシリア及びイ

ラク情勢について意見を交わした。参謀長フルシ・アカルが会談を主催したより他情報はない。
現地情報によれば、トルコは如何なる形でもラッカ解放作戦に関わることはないこと、米ロはシリアで単独行動をとらないこと、軍事行動は控えることを確認した。
ロシア、シリア政府はトルコと自由シリア軍によって解放された地域は PYD に引き渡され、クルド人が支配することを保証している。

3 月 7 日 - トルコ情報によるとアメリカはクルド人のラッカ攻撃を全面的に支援する模様
アンカラ：トルコ高官が 7 日述べたことによれば、アメリカは YPG による IS の「首都」ラッカ攻撃を全面的に支援し、トルコの野心を阻止する構えである。
他方トルコ首相ビナリ・ユルドゥルムはアメリカ、ロシアは協調してシリアからテロ組織を一掃しなくてはならないと語った。三ヶ国の軍トップは異なる党派間の衝突を防ぐべく協調していた。
トルコ高官の話では、トルコ軍参謀長はアメリカ、ロシア軍高官とアンタルヤでシリアにおける共同行動について話合った。同高官によると会談は「構図をひっくり返すだろう」とのことである。さらに「我々はアメリカがトルコではなく YPG と協力することは容認できない。同様に YPG に兵器供与をするなどもってのほかだ。」と加えた。

3 月 8 日アメリカ：YPG はテロリストではない
ワシントン：アメリカはトルコの懸念にも関わらずシリア・クルディスタンの人民防衛隊(YPG)の支援を継続している。アメリカ国務省報道官マーク・トーナーは 3 月 8 日の記者会見での質問に答え、「我々は北しりで対テロ作戦を行っているシリア民主軍の一員として YPG を支援している」と発言した。「常々言及しているように彼らはとても有効な戦力だ。ダーイシュを戦場から駆逐し、あまつさえ壊滅に導くことができる」と付け加えた

3 月 8 日 - 財政危機によりトルコにおけるクルディスタン地域政府(KRG)大使館開設が延期
ヘウレル(ヘウレル)：トルコ政府は 2016 年アンカラにおけるイラク・クルディスタン政府の大使館開設を歓迎していた。しかし壊滅的な財政状況が大きな障害となっている。KRG 外交部門トップファラフ・ムスタファによると、「我々は共に外交関係を発展させることを望んでおり、アンカラにおける KRG 外交事務所開設は待ち望まれていた。しかし財政危機により遅れが出ている。政府は歳出削減を行っており、それが現在の財政状況を引き起こしている。それ故トルコにおける外交事務所開設を不能ならしめている。」
KRG は 14 カ国—ドイツ、イギリス、アメリカ、フランス、イタリア、スペイン、オーストリア、ロシア、ポーランド、オーストリア、スウェーデン、ベルギー、スイス、イランに外交拠点を設けている。(rudaw)

3 月 10 日 - シーア国民連合代表とクルディスタン地域政府(KRG)高官が会談
ヘウレル(エルビル)：イラク、シーア国民連合代表は 10 日ヘウレルに到着し、KRG 大統

領マスード・バルザニと来たる KRG 代表のバグダード訪問について話し合った。KRG 大統領府報道官ウメト・サバハはクルディスタン民主党(PDK)公式サイト上にて、「今回の訪問はバグダード＝ヘウレルの関係について議論するための努力でもある。」と発表を行った。政府の外交部門トップであるファラフ・ムスタファは 8 日、「KRG 高官及びクルディスタンにおける政党幹部はまもなくバグダード訪問を行う。対話を通じてイラク政府と KRG の関係のあり方について探る。」サバハも「我々はクルディスタン地域とイラクの新たな関係を構築していきたい。」と述べた。(nrttv.com | rudaw.net)

3 月 10 日 - アメリカ軍司令官、より広汎、長期の北シリアにおけるプレゼンス保持について言及

ワシントン：アメリカ軍中東方面司令官は 9 日、北シリア(シリア・クルディスタン)においてダーイシュ打倒と多数の勢力が衝突する複雑な状況を解決に向けて動きを加速させるため、より広汎かつ長期にわたるプレゼンスを保持していく意向を述べた。

アメリカ中央軍将官ジョセフ・ボテルは 9 日、ダーイシュの「首都」と宣言するラッカ打倒とその後の地域安定化のため、アメリカ軍部隊を増強する必要について発言した。彼によれば、シリア人はダーイシュ掃討と円滑な民政移管のためアメリカ軍の駐留を求めており、戦闘が終結して即座に撤退することはできない。

3 月 12 日 - 日本：イラク・クルディスタン地域で 30 の地方警察署建設、装備供与

ヘウレル(エルビル)：日本政府は民間と協力したイラクのクルディスタン地域各地の警察署建設と装備供与プログラムを終了し、クルディスタン地域政府内務省に管理を委ねた。日本のプロジェクトは国連プロジェクト・サービス機関(UNOPS)の計画の一環として進められた。プロジェクト名は「イラクのクルディスタン地域の警察運営における効果、有効性、ジェンダー配慮改善計画」である。国連の発表によると、「人権に関する講習もまた 55 人の警察幹部に行われた。それは地域社会と法執行主体の関係について、人権とジェンダー配慮意識の醸成という観点に基づいて警察運営戦略と具体的施策を学ぶことであった。」(rudaw.net)

3 月 13 日 - アメリカ：在イラク大使がマスード・バルザニと会談のためクルディスタン地域に到着

ヘウレル(エルビル)：在イラク大使ダグラス・シリマンを含むアメリカ政府高官の一団は 13 日マスード・バルザニと会談するためクルディスタン地域を訪問した。対ダーイシュ特

別大使ブレット・マクガーク、合同統合任務部隊司令官ステファン・タウンゼント中将らが参加した。クルディスタン地域政府(KRG)外交部門トップ・ファラフ・ムスタファは今回の訪問についてツイートした。KRG とアメリカの関係、ヘウレルとバグダッドの関係、そしてその前進について言及した。(rudaw.net)

3 月 14 日 - クルディスタン—イラク間の検問は製造業者、運送業者、消費者にとって問題

ヘウレル(エルビル)：イラクのクルディスタン地域中心ヘウレルとイラク首都バグダッド間の検問所は製造業、物流、消費に悪影響を与え続けている。バグダッドに到達するにはそれぞれ通行料を課される 7 つの検問を越える必要がある。運送業にもはや採算が取れなくなっていることから、多くの業者が廃業を選んでいる。運送業者たちはそれぞれの検問所に税関吏が存在すると話している。彼らによるクルディスタン地域政府はイラク中央政府と関税率を共有していないのがその理由である。(rudaw.net)

3 月 14 日 - イラク・クルディスタンはアメリカでの対ダーイシュの会議に参加

ヘウレル(エルビル)：クルディスタン地域政府(KRG)代表は来月の対ダーイシュの有志連合国の会議に参加する見込みである。外交部門トップ・ファラフ・ムスタファは 13 日、KRG が対ダーイシュの有志連合国会議に前回参加できなかったことについて遺憾の意を示したことから、次の会議に参加すると明らかにした。アメリカ国務省副報道官マーク・トーナーは 22 日、「非ダーイシュ化閣僚会議」の目指すところは「ただダーイシュを打倒するだけではなくそれを生み出すところの社会的背景を解決する」と述べた。

3 月 14 日 - ネチルワン・バルザニ：凍結されていた 3600 件のプロジェクトを再開予定

ドゥホーク：イラクのクルディスタン地域政府(KRG)首相ネチルワン・バルザニは請負業者に支払いを完了した後凍結中のプロジェクトを再開すると発言した。ネチルワン・バル

ザニはドゥホークを訪問した 13 日、経済危機により凍結されていた 3600 件の政府プロジェクトを再開する見通しを述べた。「2017 年に入り経済状況は好転しつつある」と再開の理由を加え、「我々は 3600 件のプロジェクト請負業者に支払いを行う決断をした」と述べた。トルコから借入金を得て請負業者の支払いに当てる具体的見通しを明らかにした。クルディスタン地域は「多難な」三年間を過ごしたが、より良い未来に向かっていると続けた。(nrttv.com)

3 月 15 日アルメニア大使館がヘウレルに設立

ヘウレル(エルビル)：アルメニア大統領セルジ・サルキシャンは 13 日、イラクのクルディスタン地域首都ヘウレルに領事館を設立する大統領令に署名した。「アルメニア共和国法第十五条第一項の外交規定に則り、イラクのクルディスタン地域ヘウレル市に領事館を設立することを決定した。代表領事はヘウレル、スレイマニ、ドゥホークのクルディスタン地域全体に関する事案を取り扱う。」アルメニアがクルディスタン地域に領事館を設立することは 2 日の会合で決定された。(basnews.com)

3 月 16 日 - イラクのクルド人はハラブジャ事件二十周年の式典開催

ハラブジャ：イラクのクルド人は 16 日に数千人が犠牲になったハラブジャの化学兵器攻撃から二十周年を記録する式典を開催した。多数のハラブジャ住人が攻撃に伴う混乱の中で家族と離散し二度と戻ることがなかった。1988 年 3 月 16 日、バース党政権は数分立たずして人を死に至らしめるマスタードガス、サリン、タブン、VX とシアン化物を混合した毒ガスを使用した。(nrttv.com)

3 月 18 日 - カナダ：28 億円をイラク、シリアの避難民支援のため支出

カナダ外務相クリスティア・フリーランドは 17 日、カナダ政府がイラクとシリアの避難民の支援に 28 億円を支出する用意があることを話した。彼女は 22 日、ワシントンで開催される対ダーイシュの有志国連合会議に参加する予定である。アメリカ国務相レックス・ティラーソンが主導する二日間に渡る会議はイラクとシリアの過激派組織に対抗するための戦略策定を目指す。彼女によると「今日地域の安全と安定性を高めるために新たな主導的役割を担っていくことを発表する。それはダーイシュから解放された地域に多くのイラク人の帰還を支援することを含むものである。」(nrttv.com)

シリアのクルド：ラッカ攻勢は 4 月初頭に開始

カミシュロ：シリアのクルド人部隊 YPG 司令官スパン・ヘモはアメリカが支援するダーイシュの最重要拠点ラッカへの攻撃は 4 月初頭に開始されることを発表した。一方アメリカ側はそのような発表を行っていない。ヘモは珍しくのカメラの前に姿を現し、クルド人は来たるシリアにおけるダーイシュの首都ラッカ攻撃を待ち望んでいることを伝えた。さらに来月早々の攻撃開始との見通しを述べた。ロイターに語ったところによると、「ラッカ解放のための攻撃をするに当り、重要事項は決定され来月 4 月には軍事作戦が開始する」。

YPG :2017 年終わりまでに規模を 10 万人まで拡充する見込み

カミシュロ：関係者がロイターに語ったところによると、シリアのクルド人部隊 YPG は今年中に部隊の規模を現在の三分の二増強し 10 万人まで兵員を拡充することを目指している。計画はトルコに接する支配下の飛び地の防衛強化を目指すことによる。

3 月 18 日 - アメリカ当局：シリアのクルディスタンへさらに 1000 人の部隊を派遣する予定

ワシントン：アメリカ国防省関係者が 15 日話したところによると、アメリカ軍はさらに 1000 人程をシリアのクルディスタン(北シリア)に派遣する計画がある。この計画は大統領ドナルド・トランプと国防長官ジム・マティスの賛同を必要としているが、実施されればダーイシュ打倒の戦闘に従事するアメリカ軍の能力を著しく高めることになることが期待される。現在、シリアにおける部隊は 500 人にとどまっている。その数は状況に応じた「一時的」増援によりなし崩し的に増やされてきた。それは先週のラッカ付近の砲兵部隊展開に示されている。

3 月 19 日 - 農業・水資源相：イラクのクルディスタン地域の水不足解消に 20 個が必要

ヘウレル(エルビル)：クルディスタン地域政府農業・水資源相アブドゥルサタル・マジドによると、イラクのクルディスタン地域における長期的な飲料水、灌漑用水確保の必要性が年々高まっていることから、長期的な水不足解決のため現在の二倍の 20 個のダム建設を予定している。マジド氏がルダウに話したところによると、80%のダム建設計画が完了

し計画完遂のための財源確保が進んでいる。ルダウは「中央政府はクルディスタン地域におけるダム建設に必要な財源 110 億ディナールの支出を約束した。」とマジド氏の発言を伝えている。クルディスタン地域には 17 の中小規模のダムがあるが、年々の人口増加と干ばつにより水不足が各地で発生してきた。水不足は特にイランから流入するシルワン川に灌漑を依存する南地方で深刻である。(Rudaw)

3 月 20 日 - ロシア：クルド側との交渉後シリアのクルディスタンに基地設立

カミシュロ：クルド人部隊 YPG 報道官が 20 日伝えたところによると、ロシアはクルド側との合意によりシリアのクルディスタン(北シリア)に基地を設立中である。駐屯するロシア軍はテロとの戦いの一環として YPG 戦闘員の訓練を行う。YPG 報道官ラドゥル・ハリルはロイターにロシアとの合意は 19 日にまとまり、ロシア軍は輸送車、装甲車を伴う部隊は既にアフリン北地域に到着させていると話している。ハリル氏「YPG との合意によるロシア軍のプレゼンス拡大と、ロシア軍部隊のシリアにおける作戦行動はテロとの戦いに対する協力という枠組みの中で、現代戦に適応するための訓練を施しロシア軍との直接的協調を目指す。」

アメリカとロシアはシリアのクルディスタンの民主統一党(PYD)とその強力な軍事部門である YPG を、シリアにおけるダーイシュとの戦闘遂行の上で欠かせない同盟相手とする点で一致している。その支援のため兵器の提供と軍事顧問団の派遣を行ってきた。そしてクルド人はダーイシュからシリアの支配地を奪還してきた。

PYD は 2013 年、ジャジーラ、コバニ、アフリンの自治区を設立しクルド人政府をクルディスタン地域に確立した。2016 年 3 月 17 日、シリアのクルド人は連邦制の樹立を宣言した。同年 12 月 30 日には連邦制の青写真と提示し内戦中に実効支配を確立した地域の自治について再確認を行った。(ロイター)

3 月 21 日：アラヤレンギン(クルディスタン国旗)がキルクークに翻る

キルクーク：キルクーク県にアラヤレンギン(クルディスタン国旗)がイラク国旗と並んで公式に掲げられた。キルクーク県政府ナジマルディン・カリームは 21 日のネウローズ(クルド人の新年祭)に際して次のように語った。「クルディスタン国旗は単にクルド人のための旗ではなく、キルクークに住む全ての住民のための旗である。我々は混乱を欲する全ての勢力に告ぐ。この旗はアラブ人とテュルクメン人の旗でもあると。この旗はクルディスタンに住む全ての人のための旗である。」カリームは加えて「キルクークは常にダーイシュや他のテロリストに対して団結してきた。」と強調した。旗はキルクーク城に掲げられ初めて政府によって公認された。(rudaw.net)

3 月 22 日：クルディスタン民主党代表団はトランプから支援の約束と質問を受ける

ヘウレル(エルビル)：クルディスタン民主党(KDP)の幹部からなる代表団はアメリカ首都ワシントンに到着し、アメリカ大統領ドナルド・トランプと国務長官レックス・ティラーソンらとの会談が成功裏に終わったと一連の報道が伝えられた。代表団はクルディスタンのテロとの戦いへの支援継続と今後の関係強化について再確認した。会議に参加したマスード・バルザニの政府参与フアド・フセインによると、トランプ、ティラーソン両氏ともダーイシュ後のヘウレル—バグダッドの関係について知りたがっていた。フセインはルダウに語ったところによると、ティラーソンはまたダーイシュとの戦争後いかにして情勢を回復させ元の秩序に復するかについても質問した。さらに「ティラーソン氏はクルディスタンと米国の関係はさらに拡大深化することを望んでいた」と加えた。(rudaw.net)

クルド情報筋：アメリカ海兵隊がシリアに配置

カミシュロ：アメリカが支援するクルド人主導の対ダーイシュ連合関係者によると、アメリカはタブカ攻略の先方として海兵隊の歩兵部隊をダーイシュの防衛線後方に配置した。クルド人が主導するシリア民主軍(SDF)は、アメリカ海兵隊は歩兵部隊と SDF 部隊をヘリでダーイシュ支配下の地域に空輸したと伝えている。4 つの村を奪還し、ダーイシュの「首都」ラッカとその西方の郊外をつなぐ補給路を遮断した。

バルザニ：クルディスタン独立を問う住民投票は今年 10 月 23 日以前に実施

ヘウレル(エルビル)：クルディスタン地域政府(KRG)大統領マスード・バルザニは 21 日、モスルにおけるダーイシュの脅威はクルディスタンの独立を問う住民投票にいかなる影響も与えないと発言した。クルド人はかねてより厳しい状況の中で生きてきたのでダーイシュもそれと変わらないとのことだ。

中東情勢専門サイトアルモニターによるバルザニのインタビューによると、独立を「政争の具」にしているという噂を否定し、「私は全ての苦難の道と長く厳しい年月を越えてこのような決断に至った。もはや他に道はない。」と発言した。「今我々は二つの選択を強いられている。一つは我々の生来の権利全てを諦め、連邦制を放棄しイラクの一地方に成り下がることである。もう一つは投票によってクルド人民に何を欲するか問うことである。」と現状を説明した。さらに「現在の状況が継続することはなく、もし継続するとすればかつての流血と破壊の日々に逆戻りするだろう。」と付け加えた。

バルザニは住民投票について未だ準備は完了しておらず議論の最中とした。バルザニはか

つて住民投票はアメリカ大統領選挙以前の 2016 年の 10 月に実施すると宣言していた。今年実施の可能性について、「確信を持って言えることは我々の力の及ぶ範囲を超えた外部の情勢が住民投票実施を阻んでいる。今年中に実施できるよう努力をしていく。」と説明した。バルザニは独立についてトルコ、イラン、イラク、といった隣国との交渉について言及し、「我々は平和裏にかつ穏便に物事を進めたい。」とした。(Kurdistan24)

トルコ大統領エルドアン：米ロがクルド人に関心を示すことを憂慮

アンカラ：トルコ大統領レジェップ・タイップ・エルドアンは 21 日、、トルコ政府はロシアとアメリカが民主統一党(PYD)政府が支配する北シリアに支援をしていることに強い不満を持っていると発言した。CNN トルコはエルドアンの「我々はアメリカとロシアがテロ組織 PYD との協力に関心を示していることに怒りを抱いている。北シリアの領域はテロ組織占領下の地域とみなされるべきだ。」という発言を放映した。
トルコは PYD をトルコにおいてテロ組織指定されているクルディスタン労働者党(PKK)の傘下であるとみなしている。他方ロシアとアメリカは PYD をテロ組織とはみなしていない。トルコは北シリアにアンカラに敵対的なクルド人自治区が形成されることが自国のクルド人の分離独立願望を刺激することを恐れている。専門家によると、トルコはイラクのクルディスタン地域政府と同様のアンカラに忠実な政体が、北シリアに樹立することを願っている。
ロシアとアメリカはシリアのクルド人を支援しダーイシュに対抗する上で最も有力な自衛部隊であると考えている。クルド人部隊はシリアにおいて広大な地域をダーイシュから奪還してきた。

イラン大統領ハッサン・ロウハニ：イラクとシリアのクルディスタンを通過するイラン—地集会鉄道構想を発表

サナンダジュ：イラン大統領ハッサン・ロウハニは 25 日、選挙活動の一環として訪れたコルデスタン州都サナンダジュにて、イランからシリア西部沿岸地域を直結する鉄道延長計画が進んでいることを明らかにした。
ロウハニはテヘラン・サナンダジュ間の鉄道を「最重要のインフラプロジェクト」の一部とし、それが多数の雇用を生み出すことを協調した。ロウハニはサナンダジュ到着後「サナンダジュからイラクのクルディスタン地域に線路を拡大することは、さらにシリアを通り地中海に至る。」と発言した。

3 月 27 日 - クルド人指導者：ラッカはシリアのクルディスタンに組み込まれる

(民主統一党(PYD)共同代表サリフ・ムスリム)

カミシュロ：シリアのクルド人指導者サリフ・ムスリムは 27 日ロイターに、北シリアの都市ラッカはダーイシュから解放されたらクルド人とその同盟者にからなるシリアのクルディスタンの連邦制に組み込まれる見込みであると、ロイターに語った。
ダーイシュのシリアにおける主要な根拠地であるラッカはアメリカが支援するシリア民主軍(SDF)によって現在進行中の作戦の主要目標になっており、クルド人とアラブ人部隊は市域に迫りつつある。

3 月 27 日 - シリアのクルド人：トランプ政権によって対ダーイシュ作戦への関与が増した

シリア民主軍(SDF)報道官タラル・セロ

ハサカ：シリア民主軍(SDF)報道官タラル・セロは、ドナルド・トランプ大統領就任よりアメリカの対ダーイシュ作戦への関与は深まったと発言した。セロがドイツの新聞ディー・ウェルトに対し「ドナルド・トランプ政権になって全てが良くなった。我々はやっとテロとの戦いに全面的支援を得られるようになった。」と語った。

アメリカが支援する SDF は戦略的要地タブカ空軍基地をダーイシュとの熾烈な戦闘後に奪取し、ダーイシュの「首都」ラッカへの歩を進めた。セロはタブカについて「ダーイシュが立てこもるラッカへの道が開かれた」と表現し、「ラッカが陥落すればテロ組織の国家を作るというダーイシュの幻想は最終的に打ち砕かれる。」と付け加えた。

3 月 28 日 - クルディスタン地域政府：トルコに対し 3 つの国境開通を計画

ヘウレル(エルビル)：イラクのクルディスタン地域政府高官によると、KRG、トルコはさらに二箇所の国境を開通するべく共同作業を行っている。クルディスタン地域議会貿易員会委員長マジド・オスマンは 27 日バスニュースに対し、ヘウレルとアンカラの間で国境開通計画を作業を継続し大きな進展があったと語った。新たな国境ポイント設置は両国のさらなる経済関係強化と貿易振興に資するだろうと説明した。(basnews.com)

3 月 29 日 - ヘウレル地域の国内避難民キャンプは満員状態

ヘウレル(エルビル)：クルディスタン地域政府(KRG)難民キャンプ統括担当者によると、ヘウレル地区の全ての国内避難民、難民キャンプは今や満員でありこれ以上のモスルからの避難民は受け入れることができない状態にある。KRG 統合危機管理部長ホシャン・モハメドは 28 日、「ヘウレル地区のハッサン・シャーム、ハジール、チャマコル、セウディナン・キャンプな満員で新たな難民を受け入れることはできない。」語った。クルディスタン地域において唯一これ以上の国内避難民と難民を受け入れることができるのはドゥホークだけであり、8700 家族を受け入れる余地があると加え、「それが満員になればもはやモスルからのいかなる難民も受け入れることはできなくなる。」と結論付けた。イラク政府高官によるとクルディスタン地域の国内避難民の数は KRG の発表よりもかなり少なく、クルディスタン地域はイラクで最も腐敗した地域である国際調査がある。(rudaw.net | Ekurd.ne)t

3 月 29 日 - チェコ共和国はクルディスタン地域にトラクター工場を設立し農業分野へ投資をする見込み

ヘウレル：チェコ共和国代表団は現在クルディスタン地域を訪問し地域の農業分野への投資について興味を示した。チェコ共和国副農相以下の代表団は 28 日ヘウレルに到着し、クルディスタン地域の農業分野発展のため両国の協力について討議した。クルディスタン地域政府(KRG)副首相クバッド・タラバニとチェコ共和国副農相農業省ジリ・ジルサ以下代表団はクルディスタン地域の農業分野発展について会談を行った。ジルサはチェコ共和国は KRG と農業分野発展のため協力をする用意があると発言した。ゼトル社の開発部門統括ミラン・マトコビッチはクルディスタン 24 に対し、クルディスタン地域に支社を設立し、トラクター工場を開くことを計画していたと語った。(kurdistan24.net)

3 月 28 日 - 「歴史的」投票後キルクーク県庁舎にクルディスタン旗が掲げられる

キルクーク：キルクーク地域評議会は 28 日、県庁舎にクルディスタン旗を掲げられか否かの投票を行った。テュルクメン、アラブ人議員らは一連の流れが多様な民族が住む地域において紛争を惹起するとの懸念より投票をボイコットした。
評議会のクルド人議員アルマス・ファディルは投票後、「キルクークはクルディスタンの心臓部である。クルディスタン旗が掲げられるということはキルクークが真にクルディスタンの一部になったことを意味する。」と記者に応えた。

3 月 29 日 - クルディスタン地域政府大統領府：キルクークにおけるクルディスタン旗掲揚は「合法かつ平常」

ヘウレル(エルビル)：イラクのクルディスタン地域政府大統領府(KRP)はキルクークにおけるクルディスタン旗がキルクークにおいて掲揚されたのは「合法かつ平常」のことでありイラク国旗掲揚と何ら変ることはないと声明を出した。KRP の 29 日の声明によるとキルクークにおいてクルディスタン旗はバース党政権が崩壊した 2003 年より存在していた。KRP はクルディスタン旗の下でキルクークは脅威とテロ攻撃から守られており、ダーイシュ台頭が一層それが顕著になったと付け加えた。報道官は「この問題を広め民族、党派間の紛争と緊張を煽る必要はまったくないし、各党派はこの問題を政争の具にすべきでない。」と声明を読み上げた。「共存と同胞意識はクルディスタン旗とペシュメルガの防衛によって守られなければならない。」と続けた。(nrttv.com | krp.org)

バルザニ大統領と国連事務総長、住民投票について討議

3 月 30 日、クルディスタン地域政府大統領マスード・バルザニと国連事務総長アントニオ・グテーレスはヘウレルで会談した。(写真: Kurdistan24)

ヘウレル(エルビル)：国連事務総長アントニオ・グテーレスは 30 日、クルディスタン地域の中心ヘウレルに到着した。グテーレスはヘウレル国際空港においてクルディスタン地域政府(KRG)大統領マスード・バルザニの歓待を受けた。
クルディスタン地域政府大統領府(KRP)の声明によると、バルザニとグテーレスはクルディスタン地域の住民投票の具体的実施方法について議論した。バルザニは近い将来世界にクルディスタン地域の意志を示すため住民投票を行うと発言した。
会談においてグテーレスはクルディスタン地域への全面的な支援拡大と、国際社会は国内避難民保護に不十分な支援しか与えてこなかったと発言したと KRP は伝えた。グテーレスは国連はイラクとクルディスタン双方に協力し相互の不和解消、特にダーイシュ壊滅後に向けて動くと表明した。(Kurdistan24)

3 月 30 日 - トルコ首相：「ユーフラテスの盾」作戦を集結

北シリアにおけるトルコ軍部隊(写真：ロイター)

アンカラ：トルコ首相は 29 日、昨年 8 月に開始されたシリアのクルディスタンにおける「ユーフラテスの盾」を終結させつつあると発言した。しかし越境作戦を拡大する可能性について言及している。2016 年 8 月 24 日トルコ軍と自由シリア軍と共に北シリアへの介入を開始した。アフリン地区東におけるクルド人勢力支配地の拡大を止め、コバニ、ハサカとアフリンの連結を阻止することを目指した。

トルコ軍はまたダーイシュを国境から一掃した。ユルドゥルムはクルディスタンの放送局 NTV のインタビューに対して、「『ユーフラテスの盾作戦』は成功裏に終結した。今後新たな作戦が別の名の下で遂行されるであろう」と語った。

原文：ワッカス・チョーラク、和訳：並木宜史